

乳児啼泣音声および睡眠パターンの解析による自閉症スペクトラム患児早期発見に関する研究のお知らせ

神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間	令和5年4月1日～令和7年3月31日
研究課題	乳児啼泣音声および睡眠パターンの解析による自閉症スペクトラム患児早期発見に関する研究
研究の概要	<p>目的及び意義: 自閉症患児に対して早期から介入することは、患児の爾後の社会適応性を改善させるとされているが、本邦においては自閉症の診断がなされるのは言葉が話せる2歳以降、多くの場合は2歳半から3歳と言われている。もし乳児の段階で十分な育児介入ができれば、より社会適応性を向上できると思われる。過去のヒヤリングでは、自閉症患児の母親から、「健常な兄弟の時は何故泣いているのかがなんとなくわかったのに、患児が泣いたときには何故泣いているかがわからなかった。」という感想を多く得ている。おそらく患児の啼泣が健児のそれとは音声学的に異なるのであろうと考えられる。自閉症患児の啼泣以外の特徴として睡眠障害があげられる。そのため、啼泣音声解析と睡眠パターン解析をともに用いることで、判定の精度を向上できると考えている。</p> <p>対象: ファーストアセント社の「パパッと育児」および「ainenne」利用者(過去の利用者も含む)で子供の年齢が1歳6か月以上となった5,000名およびその保護者</p> <p>方法: 家庭に普及している育児支援デバイス(ファーストアセント社「パパッと育児」および「ainenne」)利用者の既取得済みである乳児の啼泣音声および睡眠データを収集し、それらを解析することで自閉症患児と健常児の差異を見出す。自閉症の判定は1歳6か月時点でのM-CHAT日本語版の点数および3歳時点での自閉症チェックリストで実施する。</p>
研究組織	<p>【研究代表者】 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 教授 徳野 慎一</p> <p>【共同研究者】 神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 講師 スヴェンソン・トーマス 東京大学 大学院 音声病態分析工学 主幹研究員 中村光晃 東京大学 大学院 音声病態分析工学 特任助教 樋口政和 テキサス大学サンアントニオ校ヘルスサイエンスセンター 教授 廣井昇 株式会社ファーストアセント 代表取締役 服部伴之</p>
個人情報の取扱い	<p>研究参加の同意取得およびアンケートの回答はファーストアセント社の管理するWEBサイトで行い、同社により会話の含まれている音声の削除などのデータクリーニングの後、匿名化された状態で神奈川県立保健福祉大学に提供される。</p> <p>データのやり取りはクラウド (dropbox®を予定) を通じて行い、研究者は個々に個人のPCにデータをダウンロードして解析を行う。</p>
その他	特になし

対象となる方で、研究の内容や、ご自身の検査結果などの研究への使用に関して、より詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

〔問い合わせ先〕

研究代表者： ヘルスイノベーション研究科 教授 徳野慎一

TEL : 044-589-8100 (代表)